

学校だより 8・9月号

令和3年8月30日
鴻巣市立小谷小学校



小谷っ子

TEL 048 (548) 1004
FAX 048 (547) 1467
URL
<http://koya-e-konosu.edumap.jp/>
e-mail koya-e@city.konosu.ed.jp

毎月19日は「食育の日」です

【学校教育目標】 夢・希望にあふれる心豊かな児童の育成



**Tokyo 2020から学んだこと
～未来はやってくるものではなく、創り上げていくもの～**

校長 池澤 道弘

夏休みが終わり、学校に子どもたちの元気な声が戻ってきました。今年の夏は猛暑日があったり、台風が続けて接近したり、前線が停滞し大きな被害が出た地域があったりと、例年とは様相の異なる夏でしたが、なんと言っても脳裏に焼き付いたのは「東京オリンピック・パラリンピック」の開催だったのではないのでしょうか。私自身、昭和39年生まれなので「東京」で開催されるオリンピック・パラリンピックには一際強い思い入れがありましたし、何とかチケットを手に入れることができ、横浜スタジアムでソフトボールの試合を見るのを楽しみにしていました。感染症の拡大が深刻さを増している中での今回の開催には、賛否両論がありましたが、個人的な意見としては、長い間檜舞台に立つことを目指して鍛錬を続けてきたアスリートのことを最優先に考えた決断だったのではないかと思います。ご案内のとおり、残念ながら無観客開催となってしまい、ソフトボールの観戦は叶いませんでしたが、連日テレビで様々な競技を見て、多くの感動をいただきました。パラリンピックは現在も開催中のため、結果がまだ出ていませんが、オリンピックでは金メダル27、銀メダル14、銅メダル17という素晴らしい結果を残してくれました。もちろん競技ですから、思うような結果が残せず悔しい思いをした選手も少なくなかったと思いますが、諦めずに最後まで挑む姿は、私たちに大きな希望を与えてくれました。本当にありがとうございました。

さて、私はこの「東京オリンピック・パラリンピック」の期間、もうひとつ心に残ることがありました。それは障害のある女性が、幼い頃より障害に負けず頑張ってきた姿が記録されている映像が繰り返し流れていたことです。とかく人は、何か目標をもって取り組もうと決意しても「できない理由」を探してしまったり、イソップ物語の「狐と葡萄」のように不合理な言い訳（合理化）をしてしまったりするなど、自分自身には甘くなりがちです。しかし、この女性は自分に障害があることを決して言い訳にせず、何倍もの努力をして目標を達成させていきます。恐らく、現在行われているパラリンピックの選手も同じ思いでここまで頑張ってきたのだらうと思います。オリンピックももちろんそうですが、とりわけパラリンピックの競技を見ると、そのひたむきさ、その心の強さを目の当たりにし、自分の甘さを痛感させられます。

ご存じのとおり「未来」という字は「未だ来ない」と書きます。でも私は、未来はやってくるものではなく、自分で創り上げていくものだと思っています。なぜなら、今の自分が変われば、未来は必ず変わっていくからです。だからこそ、目標をもち、自分に言い訳することなく、たゆまず努力を続けていくことが大切なのだと思います。

様々な意見がある中で開催された「東京オリンピック・パラリンピック」でしたが、感動とともに、とても大切なことを学ばせていただきました。これから長い2学期が始まりますが、小谷っ子も自分に負けず、目標に向かって頑張り続けてほしいと願っています。2学期もどうぞよろしくお願いたします。



